

東光會

○東光會 大正十二年四月二十日設立許可、同志六七名の結合を以て成り、同年五月七日、發會式を兼ねて講演會を開いた。爾來十五年、永續せる點に於ては、基・佛二會に亞ぐものであり、依然として立田山莊に本部を

置いてゐる。而して規約は、往年徳富蘇峰氏歸郷の際、揮毫を乞うたものである。

童話會

○童話會 昭和元年發會、熊本縣教育會明麗館に於ける日曜オトギ會の外、春秋二季の大會をも開いてゐるが、近年その消息を耳にしない。

映畫同好會

○映畫同好會 昭和四年七月發行の龍南第二百十號に依れば、起原未詳、會て一年足らずの間存在せる五高映畫研究會を併合したもので、會員の最も多いのは、時代の然らしむる所であらう。

哲學讀書會

○哲學讀書會 昭和四年成立、一年にして終了、十一名の氏名が錄せられてゐる。

蒼龍社

○蒼龍社(坐禪) 昭和八年十一月五日、坪井見性寺に於て結盟式を舉行、爾來同寺に於て毎週坐禪、今日に及んでゐる。坐禪を根柢として、人格の陶冶を期するを以て目的としてゐる。

科學同好會

○科學同好會 昭和九年二月一日を以て發會式を舉行、爾來今日



(書氏峰蘇富徳) 約規會光東

に及んでゐる。理科生徒を中心とすることは言ふまでもない。

吟詠會

○吟詠會 龍南會創立以前に溯るべきものであらうが、蒼龍社の一部として再興されたのは、昭和九年五月のことであり、後獨立して、今日まで毎週會合してゐる。

洗心會

○洗心會(書道) 昭和九年十一月二十日の夜、生徒集會所に於て發會式を舉行、毎週一回、習書の裡に俗腸を洗掃せんとするものである。

哲學研究會

○哲學研究會 昭和十年二月二十三日發會、一年を以て終了、會員名簿中、理科生も記されてゐることは、前記の讀書會と同様である。

龍嶺怒號會・蘇鳴會・山上・翼・三四郎等

以上の外、大正五年頃の「龍嶺怒號會」、同十年頃のクラス同人會「蘇鳴會」(國文研究)、同十五年頃の「山上」(短歌)、「翼」(詩)、「三四郎」(創作)等の同人會に至るまでを列挙すれば、かなりの數に上るであらう。又、各種の會には、顧問若くは賛助員として、教授の名も記されてゐるものも少くないが、悉く省略した。

九 來 校 の 名 士

畏くも 今上陛下の行幸や、各宮殿下の台臨に就いては、或は一章を設け、或は一節を充て、或は本章第一項に謹記したが、文部大臣や大隈伯(後の侯爵)を始めとして、幾多名士の來校があつたことも、在學當時の人々には、夫々の記憶があるであらう。故に前記の杉浦・濱尾二氏等を除き、主として學校の記録や龍南會雜誌等に散見する主なる人々を、年代順に列挙することも、強ち無用の業ではないと思ふ。而して各種の式目に臨場せる人々を記すことは、煩に堪へないので之を略することとした。(*印は本校卒業生)

來校の名

○佐野子爵 赤十字社の用務を以て來熊中の佐野子爵は、明治二十六年五月十九日來校、教場習學寮等巡覽の後、中川校長の請に應じて、瑞邦館裡、生徒一同に對して講話。

○勝島仙之助氏 東京帝國大學農科大學教授たる氏は、明治二十七年五月五日來校、龍南會の爲に、瑞邦館に於て講演。

○西村茂樹氏 宮中顧問官日本弘道會長たる氏は、明治二十七年五月十一日午前來校、各教室を巡覽、午後、本校・尋常中學校・熊本師範學校生徒の爲に、縣會議事室に於て講演。

○志賀泰山氏 東京帝國大學農科大學教授たる氏は、明治二十七年五月二十九日來校、學校長の懇請に應じて講演。

○松澤敬讓氏 軍艦嚴島に乗込みて、黄海の戦に奮闘、名譽の負傷を爲し、日奈久温泉に療養中の海軍少機關士たる氏は、明治二十七年十二月五日來校、午後三時より、瑞邦館に於て海戰談。

○嘉納前校長 明治二十九年五月某日來校、瑞邦館に於て一場の談話。

○細川護久侯、先般フランス留學より歸朝の侯爵は、明治二十九年三月二十七日來校、各級の授業參觀。

○ビシツヨブ夫人 明治二十九年十月十三日、午後六時半より、瑞邦館に於て演説。

○小崎弘道氏 明治三十年六月十一日、來校參觀。

○フィッシャー氏 明治三十一年五月二十日、スキフト・井深梶之助氏と共に演説。

○徳富猪一郎氏 明治三十三年四月二十六日、午後七時より瑞邦館に開會の演説部例會に臨場、國家本位を説

き、協同一致の必要を述べたが、聴衆滿堂、立錫の餘地なしと記されてゐる。

○新渡戸稻造博士 明治三十四年四月二十日、渡臺の途次來校、演説部主催を以て、午後一時より講演。

○片岡健吉・尾崎行雄二氏 片岡衆議院議長及び尾崎政友會總務委員は、明治三十四年四月二十一日來校、午前十一時二十分より、瑞邦館に於て演説。

○菊地文部大臣 明治三十四年十月二十八日午前八時、上田専門學務局長・田所秘書官帶同にて來校、各教室の授業を視察し、諸建物を巡檢の後、正午寄宿舎食堂に臨みて、寮生の食事を視、午後一時より、雨天體操場に於て訓話、午後二時半離校、一同校門にて見送る。

○郡司大尉 占守島の開拓者にして報效義會長たる氏は、明治三十五年二月二十四日來校、一場の演説を試みた。而して職員生徒一同よりは、金百圓を贈出して贈呈した。

○久我通久侯 大日本佛教徒同盟會長の資格を以て來熊中の侯は、明治三十五年四月二十七日、隨行員二名と共に來校、午前八時より、演説部主催の下に、瑞邦館に於て講演。

○八淵蟠龍氏 奇警の快辯を以て、當時の佛敎界に令名噴々たる氏は、明治三十五年五月三十日來校、演説部主催の下に講演。

○ヒュース嬢 明治三十五年十月三十一日、龍南會の名を以て迎へられたケンブリッヂ大學師範部長たる嬢は、櫻井校長の紹介にて講演。

○笹森字一郎博士 明治三十七年二月七日來校、午後七時より、演説部主催の下に、「希烈來語歌の一句」と題

して講演。

◇常陸山關 明治三十八年四月十三日、小錦その他を率ゐて來校、土俵開に於ける生徒の相模を指導。(重出)
清浦奎吾男(現伯爵) 明治三十九年十一月七日來校、雨天體操場に於て、主として熊本高等工業學校生徒の爲に講演。

◇藤澤利喜太郎博士 明治四十二年三月某日、學事視察として來校。

◇北條時敬博士 明治四十二年十月二十五日來校、雨天體操場に於て講演。

◇小松原文部大臣 明治四十二年十一月二十六日來校、授業及び校内巡視、晝食(職員陪食)の後、教員に訓話、午後一時より二時まで生徒に訓話、更に兵式體操・劍道・柔道等觀覽。

◇平井海軍中佐 明治四十三年五月二十七日來校、午前八時半より講話。

◇細川護成侯 明治四十三年十月十日、創立第二十周年紀念式に來臨の上、祝詞口演。

◇片岡海軍大尉 明治四十四年五月二十七日來校、午前八時過より講話。

◇海老名彈正氏 明治四十五年四月二十一日來校、瑞邦館に於て講演。

◇園田海軍少佐 明治四十五年五月二十七日來校、午前八時半より講話。

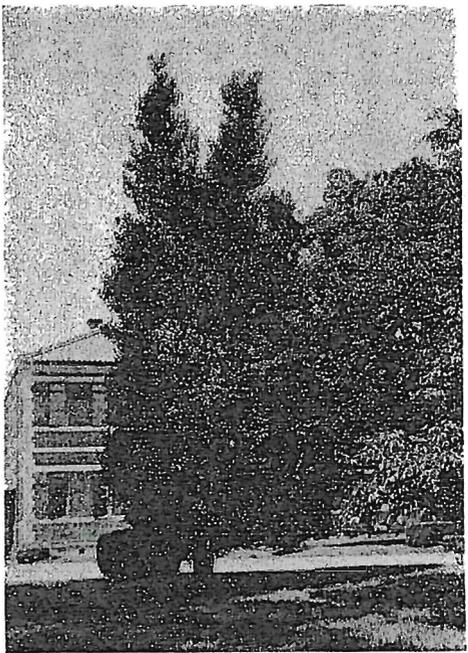
◇内ヶ崎作三郎氏 早稻田大學教授たる氏は、大正二年十月二十四日來校、午後三時より瑞邦館に於て講演。

◇大隈重信伯(後の侯爵) 大正二年十一月十九日午後五時來校、本館西側に於て一場の演説、生長してゐる月桂樹は、記念の手植である。

◇井上哲次郎博士 大正三年十月十八日來校、「人生と修養」と題して講演。

◇澤柳政太郎博士 大正三年十月二十九日來校、濟美館に於て講演。

◇海老名彈正氏 大正四年一月二十八日來校、午後三時より瑞邦館に於て講演。



大隈伯記念樹

◇大藤高彦博士 京都帝國大學工科大学々長たる氏は、大正四年三月十七日、學事視察として來校、二部甲類の授業視察。

◇小川正孝博士 東北帝國大學理科大學々長たる氏は、大正四年四月十四日來校。

◇黑澤文部參事官 大正四年四月二十八日來校。

◇建部遜吾博士 大正四年十一月十二日來校、九州日日新聞社主催、本校演說部後援の下に、雨天體操場に於て、「國體と國是」と題

し、三時間に亙る講演。

◇高田文部大臣 大正五年五月五日、來校視察の後、午後三時より武德殿に於て、高等專門學校生徒に對して講話。

◇日下部四郎太博士 東北帝國大學理科大學教授たる氏は、大正七年三月二十七日來校、授業參觀。
◇高野岩三郎博士 東京帝國大學法科大學教授たる氏は、大正八年五月十六日來校、午後一時より、雨天體操場に於て講演。

◇柴田家門氏 前文部大臣たる氏は、大正八年五月二十七日來校、授業視察。

◇神田乃武男 大正八年六月二日來校、授業視察。

◇平沼驥一郎博士 早稻田大學々長たる氏は、大正八年七月二十三日來校。

◇賀川豊彦氏 大正九年五月十七日來校、花陵會主催の下に、瑞邦館に於て、「精神生活に於ける新發見」と題する講演。

◇南文部次官 大正十一年四月二十二日來校、授業視察。

◇松浦専門學務局長 大正十一年十一月十九日來校、日曜日に付、各教室一巡の上退去。

◇服部宇之吉博士 第七高等學校造士館に於ける孔子祭出席の歸途、大正十二年四月十九日來校、午後三時より、瑞邦館に於て、溝淵校長紹介の後、三時間に互る講演、「聴衆六百、入場出來ざる者もあつた」と記されてゐる。

◇鎌田文部大臣 大正十二年四月二十六日來校視察。

◇三上參次博士 大正十三年十月十三・十四兩日來校視察の後、十四日午後二時より、雨天體操場に於て講演。

◇細川護立侯 大正十四年四月十一日來校、トラック開に臨場。(重出)

◇武部實業學務局長 大正十四年五月一日來校。

◇藤井健次郎博士 大正十五年十一月十一日來校講演。

◇石川千代松博士 昭和二年六月二十三日來校。

◇山崎文部次官・安藤參與官 昭和二年七月三十日來校視察。

◇粟屋専門學務局長 昭和二年十一月二十六日來校視察。

*◇小橋文部大臣 昭和四年九月十三日來校、午後二時より、教員圖書閱覽室に於て、職員一同に對して挨拶、更に雨天體操場に於て、生徒に對して訓話。

◇玉錦關 昭和四年十一月八日、多數の力士と共に、土俵開に來校。(前出)

◇大瀨甚太郎博士 東京文理科大學々長たる氏は、昭和五年六月二十三日來校。

*◇木村實業學務局長 昭和五年九月二十六日來校。

◇荒木第六師團長 昭和五年十二月十日、查閱官中島少將と共に來校、體操場に於て、生徒一同に對して訓話。

*◇大麻文部省參與官 昭和六年四月四日來校。

*◇山川端夫氏 昭和六年五月十八日、石井子と共に來校、午前九時より、講堂に於て講演。

◇建川美直少將 參謀本部第二部長たる少將は、昭和六年六月一日來校、午前十時より、講堂に於て、國防に關して講話。

◇鮫島實三郎博士 東京帝國大學理學部教授たる氏は、昭和七年六月十三日來校、午後三時より講演。

* 後藤農林大臣 地方農事視察の爲來熊中の氏は、本校出身たる縁故を以て、十時校長の懇囑否み難く、寸暇を偷みて昭和八年六月四日の夜來校、午後八時より、講堂に於て講演、日曜日にも拘らず、生徒殆ど全部出席、感銘殊に深きものがあつた。

◇大隈信常侯 昭和八年十月十八日來校。

◇西田天香氏 大正十年秋頃、雨天體操場に於て、演說部主催の下に講演せる氏は、昭和九年一月三十日再び來校、午前四時より座談會。

◇鳩山一郎氏 前文部大臣たる氏は、昭和九年五月一日來校、午後三時より、講堂に於て講演。

◇服部宇之助・吉田靜致兩博士 昭和九年十一月二十九・三十日兩日に互りて授業視察。

◇橋本賢輔博士 九州帝國大學工學部教授たる氏は、昭和九年五月十九日、佐藤助教と共に來校、午後一時より、瑞邦館に於て、航空に就き講演。

◇黒木三次伯 昭和十年一月二十二日來校。

* 黒板勝美博士 昭和十年五月一日來校、午前十時より、講堂に於て講演。

◇吉江琢兒・窪田忠彦兩博士 昭和十一年二月十九・二十兩日に互りて授業視察。

* 齋藤惣一氏 日本青年基督教同盟主事たる氏は、昭和十一年五月十五日來校講演。

* 齋藤禮三氏 昭和十一年十月十日、第四十六回開校記念式後、引續き講演。

◇阿武京二郎氏 九州帝國大學法文學部長たる氏は、昭和十二年一月二十九日來校、瑞邦館に於て、文科三年

生二十五名と懇談。

◇高楠順次郎・藤村作兩博士 昭和十二年十月二十一・二十二兩日に互りて授業視察。

尚、昭和五年以降、文部省派遣の特別講義（小山氏以後は、日本文化講義と記されてゐる）講師の氏名と年月とを列舉して置く。

◇新渡戸稻造博士 昭和五年六月十六日（午前十時より二時間、以下同じ）

◇石井菊次郎子爵 昭和六年五月十八日

◇川合貞一博士 昭和六年十月二十日

◇西 晉一郎博士 昭和七年六月四日

* 高田保馬博士 昭和七年十一月十四日

◇紀平正美博士 昭和八年五月二十四日

◇川村多實二博士 昭和八年十一月二十二日

◇吉田熊次博士 昭和九年六月十三日

◇土方成美博士 昭和十年一月十一日

* 松井元興博士 昭和十年六月十二日

◇永井潜博士 昭和十年十月十一日

◇永井松三氏 昭和十一年十月一日

特別講義
(日本文化)
の講師氏
名と年月

- ◇藤原 咲平博士 昭和十一年十一月十六日
- ◇作田 莊一博士 昭和十二年一月十五日
- *◇明石 眞隆博士 昭和十二年二月十五日
- ◇寛 克彦博士 昭和十二年五月二十四日
- ◇本多 光太郎博士 昭和十二年六月十八日
- ◇小山 松吉氏 昭和十二年九月十六日
- ◇芳澤 謙吉氏 昭和十三年一月二十八日

(其後の分は省略)

教練査閲
官竝に査閲
閣日

野外教練査閲官竝に査閲日 (第二篇第二章第六節參看)

- ◇篠田 次助少將 大正十五年二月十五日
- ◇峯 幸松少將 昭和二年二月十五日
- ◇中島 虎吉少將 昭和三年二月十三日
- ◇中島 虎吉少將 昭和四年十二月六日
- ◇中島 虎吉少將 昭和五年十二月十日
- ◇長谷川 國太郎少將 昭和六年十二月七日

- ◇平野 博少將 昭和七年十二月五日
 - ◇平野 博少將 昭和八年十二月六日
 - ◇浦 澄江少將 昭和九年十二月四日
 - ◇浦 澄江少將 昭和十年十二月四日
 - ◇三浦 嘉門少將 昭和十一年十二月二日
 - ◇三浦 嘉門少將 昭和十二年十二月三日
- (伊藤武夫大佐代理)

十 金 品 の 寄 附

五十年間に於ける金品の寄附を、細大漏らす所なく書留めることは、到底出来ないもので、既記の創立費・栽樹會・花瓶(創立三十年竝に五十年記念會)等を除くの外、その主なるものを列挙して、厚意を表したいと思ふ。

◇野村彦四郎氏 明治二十年十二月十六日付を以て、森文部大臣宛提出、同月二十日間届の「樹木寄附願」には、「今般新築可相成第五高等中學校敷地ハ五萬坪餘有之其周圍ハ勿論空地等多々可有之ニ付テハ時氣ヲ撰ミ土地ハ學校ノ許可ヲ經テ茶楮梅等ノ有益樹木ヲ寄附植付ケ度右ハ他日學校收入上ニ多少ノ利益モ可有之義ト存候間云々」と記されてゐる。現存せる數株の梅も、恐らくそれなるべく、茶は校長官舎の裏に數株を見受けるが、楮は年と共にその姿を消して行つたやうである。又、同月九日付、文部省總務局より、本校に宛てた通牒には、「石川縣士族從六位野村彦四郎儀貴校生徒修學旅行用及戶外運動用諸費ニ充ツヘキ目的ヲ以テ來明治二十一年ヨリ當